

## 2016年度環境活動レポート



2017年10月1日

公益財団法人 地球環境戦略研究機関 (IGES)

# 目次

	ページ		ページ
1. 組織の概要		目標2：新電力への切替の検討に関する取組み結果	
事業所名及び所在地	・・・ 3		・・・ 29
事業の概要	・・・ 5	目標3：IGESエコアクションの社会への還元	
組織図	・・・ 6	(1) ISAP	・・・ 30
事業活動規模	・・・ 7	(2) 地域での活動<自治体との連携>	・・・ 31
		(3) 地域での活動<情報発信>	・・・ 32
2. エコアクション21実施の方針、環境目標 及び環境計画		(4) 地域での活動<地元貢献>	・・・ 33
エコアクション21の対象範囲	・・・ 8	(5) 地域での活動<環境教育>	・・・ 34
エコアクション21の組織図	・・・ 9	3. 2016年度の環境活動の評価及び2017年度の 取組み内容	・・・ 35
環境方針	・・・ 10		
環境10箇条	・・・ 11	4. 環境中期目標（環境負荷への対応）の策定について	・・・ 36
2016年度の全体目標	・・・ 12		
目標1：環境負荷に関する環境目標		5. 環境関連法規の遵守状況及び法律違反・訴状・苦情 の有無	・・・ 37
(1) 葉山本部	・・・ 13		
(2) 関西研究センター	・・・ 22	6. 代表者による全体の見直しと評価	・・・ 38
(3) 北九州アーバンセンター	・・・ 23		
(4) 東京事務所	・・・ 24		
(5) APNセンター	・・・ 25		
(6) 国際生態学センター	・・・ 26		
(7) 出張の航空機利用に伴うCO <sub>2</sub> 排出量	・・・ 28		

### 公益財団法人 地球環境戦略研究機関 (IGES: Institute for Global Environmental Strategies)

1998年3月 日本政府のイニシアチブと神奈川県の支援により設立。

2012年4月 公益財団法人へ移行

#### 事業所名及び所在地

<国内>

##### ◆本部

〒240-0115 神奈川県三浦郡葉山町上山口2108-11

##### ◆東京サステナビリティ・フォーラム

〒105-0003東京都港区西新橋1-14-2 新橋SYビル4F

##### ◆関西研究センター

〒651-0073 兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2 人と防災未来センター東館5階

##### ◆北九州アーバンセンター

〒805-0062 福岡県北九州市八幡東区平野1-1-1 国際村交流センター3F

◆APNセンター（APN：Asia-Pacific Network for Global Change Research）

〒651-0073 兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2 人と防災未来センター東館4階

◆国際生態学センター

〒222-0033横浜市港北区新横浜2-14-27 新横浜第一ビルディング3F

<海外>

◆バンコク地域センター

604 SG Tower 6F, 161/1 Soi Mahadlek Luang 3. Rajdamri Road, Patumwan, Bangkok, 10330, Thailand

◆北京事務所

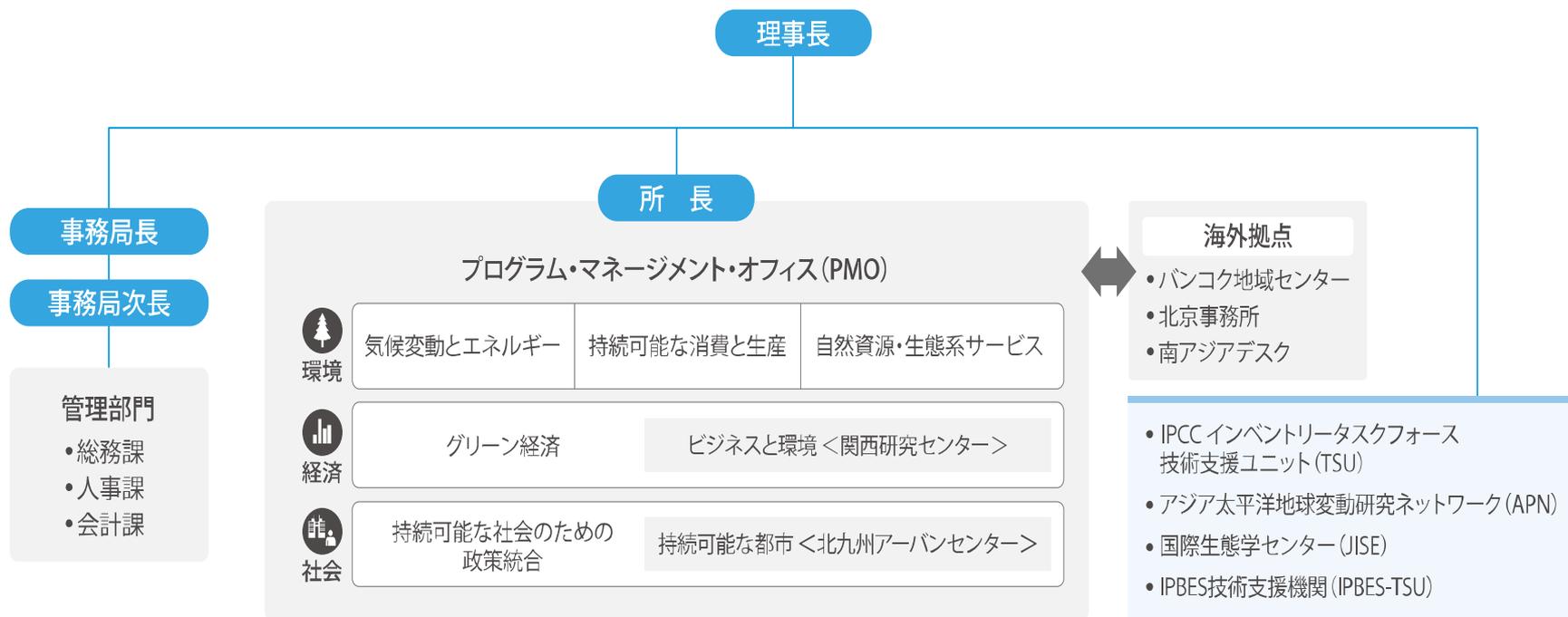
100029 中華人民共和国北京市朝陽区育慧南路1号 中日友好環境保護中心508室

### IGESが目指すもの

アジア太平洋地域では、経済発展に伴い人口増加や都市化が進み地球温暖化、資源の枯渇、廃棄物の増加などの様々な環境問題が深刻化しています。IGESでは、各国の政府・研究機関・企業・NGO・国際機関・市民の皆様と連携を深めながら、低炭素で資源消費の少ない持続可能なアジア太平洋地域に向けた問題解決型の研究を進めるとともに、国際社会、関係各国、自治体等における政策形成プロセスにかかわり、積極的に政策提言を行い、人々が豊かに暮らせる持続可能な社会を目指して、様々な提案を行っています。

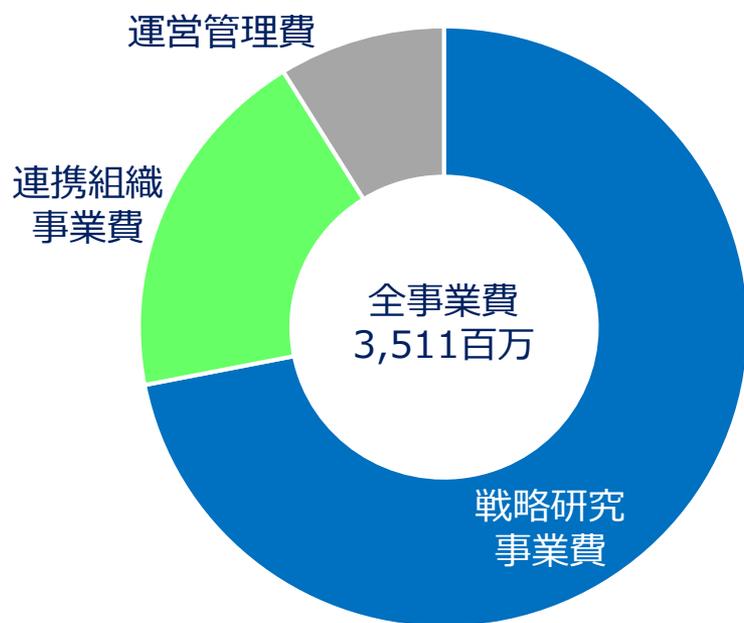


2016年度は第6期統合的戦略研究計画（2013年4月～2017年6月）の最終年度として、持続可能な開発の3つの側面である「環境」「経済」「社会」の観点から現在アジア太平洋地域で顕在化しつつある問題を明らかにし、課題解決型の政策研究を進めました。また、国内外の研究拠点や政府間プログラム・ネットワーク等との連携を通じて幅広い研究活動を行いました。

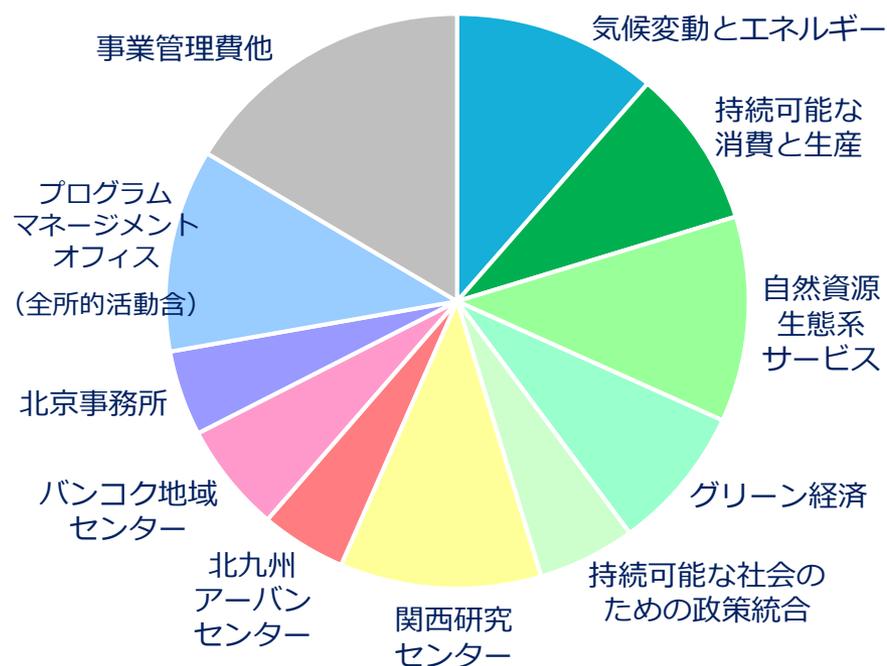


プログラム・マネージメント・オフィス (PMO) は、各研究分野における政策へのインパクト形成強化を目指した戦略研究の全体調整と、ネットワーキング、能力開発、知識管理、アウトリーチなどの戦略オペレーションの実施を行っています。

## 事業費



## 戦略研究事業費における研究領域別割合



\*事業費および研究領域別割合は2016年度決算額に基づく

# エコアクション21の対象範囲

職員数:2017年3月31日現在

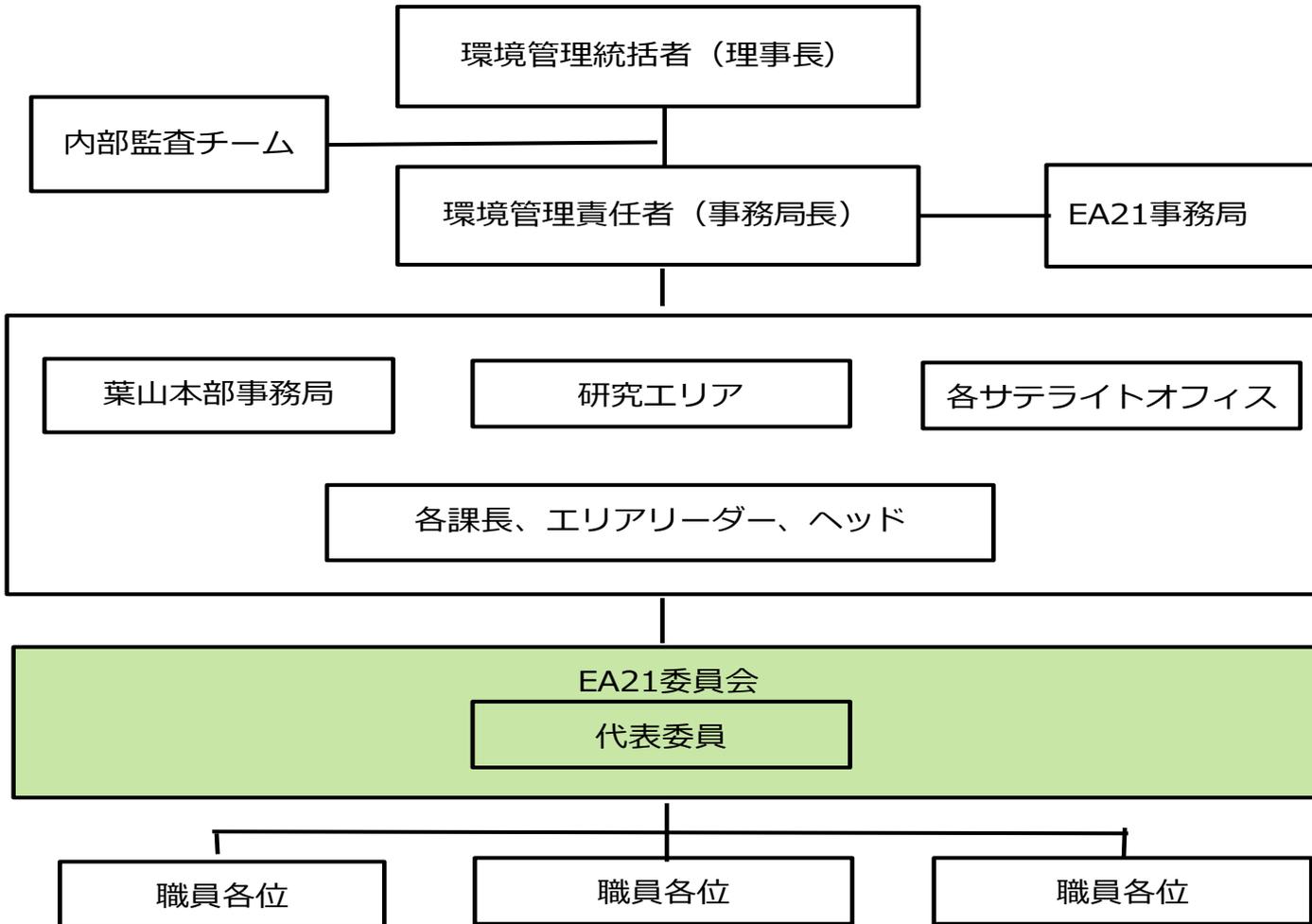
事業所名	所在地	延床面積	職員数
<国内>			
葉山本部	神奈川県三浦郡葉山町	7,408m <sup>2</sup>	135名
東京事務所*	東京都港区西新橋	303m <sup>2</sup>	2名
関西研究センター	兵庫県神戸市中央区	246m <sup>2</sup>	8名
北九州アーバンセンター	福岡県北九州市八幡東区	150m <sup>2</sup>	11名
アジア太平洋地球変動研究ネットワーク (APN)	兵庫県神戸市中央区	196m <sup>2</sup>	11名
国際生態学センター	神奈川県横浜市港北区	383m <sup>2</sup>	8名
			計 175名

- ・環境活動レポートの対象期間：2016年4月1日～2017年6月30日（事業年度変更により15ヶ月間）
- ・環境活動レポートの発行日：2017年1月31日

\*東京事務所は2017年7月より「東京サステナビリティフォーラム」へと名称を変更しました。その所在地、事務所としての機能について変更はありません。

海外に2か所（バンコク、北京）事務所がありますが、これらの事務所についてはEA21の審査対象とはしないものの、環境負荷の削減のために日本国内の本部・事務所の取り組み例を参考に、出来る限り同様の取り組みを行うようにします。

# エコアクション21の組織図



私達は、持続可能な発展の実現を目指し、実用的かつ革新的な政策研究を行う国際的研究機関である地球環境戦略研究機関（IGES）の一員として、本環境方針に従い日々の業務を管理し、関連する環境関係の法令や協定などを遵守し、研究目標を達成することを誓います。

## 1. 持続性

私達は、将来世代の幸福と繁栄を考慮しつつ、資源浪費型の生活習慣と価値観を変えることによって、持続可能な発展の実現に貢献します。

## 2. 実践

私達は、環境面において持続的で、社会に容認され、経済的に実現可能な施策を自ら実行することで、持続可能な発展の原則と研究成果を具体的に示します。さらに、私達の任務を遂行する上で発生する環境負荷を減らすように努力します。

## 3. 文化

私達は、地域の知恵と伝統を活用し、男女の衡平と文化的多様性を尊重することで、持続可能な発展の原則を広めていくことを目指します。

## 4. 地域への関与

私達は、持続可能な学びの社会の実現に向けて、地域の人々や若者の活動を支援し、共に活動します。

## 5. 国際協力

私達は、さまざまな境界を越えた協力を通じて、持続可能な発展に向けてのアイデアと専門知識を共有し、国際的な実践共同体を構築します。

2008年10月1日

公益財団法人地球環境戦略研究機関

理事長 浜中 裕 徳

環境目標の達成を目指すために職員一人一人ができるアクションとして「環境10箇条」を設定し、自主的、積極的に取り組んでいます。

1. 職員一人一人が環境に配慮した意識を持ち業務を遂行します。
2. 空調の適正化（冷房28度、暖房20度）を進めます。
3. 取組状況、環境関連法規など定期的に確認し問題があれば速やかに是正します。
4. EA21の取組を実施するため、必要な教育を定期的 to 実施します。
5. 昼休み等、職員不在の時の職場の消灯を徹底します。
6. 席を長時間離れる時は、パソコンの電源を切ります。
7. 環境に配慮した物品（エコマーク等の付いた物品）を購入します。
8. コピーの両面印刷や裏紙利用を徹底し、紙の有効利用を図ります。
9. ゴミを分別し、ゴミの削減とリサイクルを推進します。
10. 水の利用を最小限にし、節水に心がけます。

2016年4月改訂

### ◆目標 1

引き続き**環境負荷**に関する環境目標（CO<sub>2</sub>、廃棄物、総排水量の削減等）に努める。

### ◆目標 2

電力自由化に伴い、再生可能エネルギーをさらに活用する電気事業者への切替を新たに検討する。

### ◆目標 3

持続可能な社会の実現を目指す政策研究を行うという、2016年度事業計画を着実に遂行し、その上で各人がIGESの環境問題への取り組み（政策提言、研究成果の発信、地元貢献活動等）を通じて社会へ還元し、エコアクション2.1へ貢献する。

# 目標1. 資源利用に関する環境目標

## (1) 葉山本部における目標と活動計画①

項目	2016年度環境目標		2016年度環境活動計画	
	目標値	対基準年度削減率		
CO2	390.2t-CO2	26.6% (対2007基準年度)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 以下に要約される季節別の空調運転方針を策定し、これに準じた効率的な空調運用を実施することで、CO2排出の抑制を図る。</li> <li>夏季：前日からの翌朝7時の外気温度の予報温度によって空調熱源の選定と稼働時間を決める方針を立てる。</li> <li>室温設定は26℃</li> <li>冬季：2015年度の冬の空調運転の実績を分析し、10月頃までに方針を策定する。</li> <li>・ 空調稼働状況につき日次・月次で報告を受け、運転方針と齟齬がないか、効率的な運転を行っているか等のチェックをする運用体制を維持する。</li> <li>・ モニタリングシートの記入により以下の対策を図る</li> <li>-残業や休日出勤時による空調運転の抑制</li> <li>-不要な照明の消灯の徹底</li> <li>-離席時のパソコンのスタンバイモードの徹底</li> </ul>	
	電気	721,523kWh		20.4% (対2007基準年度)
	ガス	39,609m <sup>3</sup>		43.9% (対2007基準年度)

# 目標1. 資源利用に関する環境目標

## (1) 葉山本部における目標と活動計画②

		2016年度環境目標		2016年度環境活動計画
排水量		4,106m <sup>3</sup>	45.6% (対2007基準年度)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2012年度に発生した漏水の検知遅れ対策で構築した体制（日次の目視点検・メーター検針を行い、メーター値を表に落とし込み、異常値を検知する）を維持する。</li> <li>・IGESと施設管理委託業者との月次定例会にて上水使用量に異常がないか確認する。（前月比、前年同月比のチェック）</li> <li>・ビオトープへの注水量をチェックし、水漏れなどの異常がないか確認する。</li> </ul>
廃棄物	可燃ゴミ	2,753kg	40.7% (対2007基準年度)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月次定例会にて廃棄物排出量に異常がないか確認する。（前月比、前年同月比のチェック）</li> <li>・ゴミ廃棄について特異な事象があれば、随時清掃員や管理人から報告させる体制を従前から築いていたが、管理人の入れ替わりで疎かになっているので再度この体制を構築する。</li> </ul>
	不燃ゴミ	834kg	31.6% (対2012基準年度)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前年からのリサイクルプラスチック分別の強化を引き続き行う。</li> <li>・月次定例会にて廃棄物排出量に異常がないか確認する。（前月比、前年同月比のチェック）</li> <li>・備品や消耗品の適正な在庫管理により購入を抑制する。</li> <li>・リサイクル可能な物を調達する。</li> </ul>

# 目標1. 資源利用に関する環境目標

## (1) 葉山本部における目標と活動計画③

コピー用紙購入量	630,333枚	31.7% (対2007基準年度)	<p>モニタリングシートを介して以下の対策を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会議資料や、プレゼン資料の適正な印刷部数を把握する。</li> <li>・所内グループウェア、ファイルサーバ及びメールの活用</li> <li>・両面印刷/裏紙利用の徹底</li> <li>・打合せのペーパーレス化</li> </ul>
リサイクルプラスチック率	27.14% (不燃ごみとリサイクルプラの総量に対するリサイクルプラの割合)	10.87%向上 (対2013基準年度)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不燃ごみとプラスチックを適正に分別する。</li> <li>・各部署に設置したリサイクルプラスチック用ごみ箱で、適正な分別を維持する。</li> </ul>
グリーン購入率	53.68% (総購入品目におけるエコマーク製品の割合)	0.22%向上 (対2014基準年度)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・測定方法を恣意的判断が入らない、簡素化した新しい計測方法を維持する。</li> <li>・定期的にモニタリングシートを記入する事によって、職員に常時、購入率を意識させる。</li> </ul>
資源リサイクル	ビン	恒常的な異常値を追究する事を目的とし、削減目標値は設定しない。	<p>以下の対策を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・適正に分別をし、リサイクルを実施</li> <li>・排出の異常値を、毎月の排出量とその前月及び前年同月比を把握することにより早期に検知する。</li> <li>・継続的に増加する傾向が見られた場合に原因を追究し、必要に応じて削減策を実施する。</li> </ul>
	ペットボトル	以下の対策を実施する。	
	カン	以下の対策を実施する。	

# 目標1. 資源利用に関する環境目標

## (1) 葉山本部における環境活動の取組結果とその評価①

項目	2016年度環境目標			2016年度結果に対する評価
	目標値	対基準年度削減率	達成	
CO2	390.2t-CO2	368.1 t-CO2	○	<p>IGESではエネルギー消費の大半を空調運転でしているため、空調運転管理が目標達成の肝となる。各季節における方針立てに基づいた運転、及び日常の監視、月次での見直しにより適正な運転ができ、目標も達成できた。</p> <p>本年に改めた事は、方針では日々の運転ルールを従来は時期的にやっていたが、翌日の予想外気温度によって運転時間を変えるルールとした為、より適正な運転ができた。新たな試みとしてはガスと電気の最大需要（デマンド）となるような時間を意識しガスと電気の切り替えを試みた。</p> <p>貯湯槽の不調により、ガス消費量が安定していなかったため注視した。</p>
電気	721,523kWh	673,774kWh		
ガス	39,609m <sup>3</sup>	38,762m <sup>3</sup>		

# 目標1. 資源利用に関する環境目標

## (1) 葉山本部における環境活動の取組結果とその評価②

		目標値	目標に対する結果	達成	2016年度結果に対する評価
排水量		4,106m <sup>3</sup>	3,995m <sup>3</sup>	○	10、11月に貯湯槽不調により、水の使用量が一時的に上がってしまった。貯湯槽チャッキ弁の不調により、お湯が逆流してしまい、朝一番に水を使用する厨房配管にお湯が回ってしまうので、その分厨房で水を流さなくてはならないような状況であった。厨房における状況の把握はできたが、原因の追求及び対策が中々できず苦戦した。対策としては夕方に人為的にチャッキ弁に衝撃を与えチャッキ弁を閉めた。水回り施設全般の監視強化をした。それ以外の設備や水利用に異変はなく適正な利用と管理ができたので、目標値を達成することができた。
廃棄物	可燃ゴミ	2,753kg	2,367kg	○	月次定例会にて廃棄物排出量に異常がないか確認をしているが、異常は見当たらなかった。ビル管理受託業者の清掃員や管理人の人員入替えが生じていたが、廃棄物及び排出量の異常確認、報告のルールを維持できるように努力した。
	不燃ゴミ	834kg	631kg	○	月次定例会にて廃棄物排出量に異常がないか確認をしているが、異常は見当たらなかった。以下の取り組みがうまくいったと思われる。リサイクルプラスチック分別の強化。備品や消耗品の適正な在庫管理による購入の抑制。リサイクル可能な物の選定。

# 目標1. 資源利用に関する環境目標

## (1) 葉山本部における環境活動の取組結果とその評価③

		目標値	目標に対する結果	達成	2016年度結果に対する評価
コピー用紙購入量		630,333枚	433,000枚	○	以下の対策が功を奏し目標値を達成できた。 ・会議資料や、プレゼン資料の適正な印刷部数を把握する。 ・所内グループウェア、ファイルサーバ及びメールの活用 ・両面印刷/裏紙利用の徹底 ・打合せのペーパーレス化
リサイクルプラスチック率		27.14%	33.37%	○	分別したリサイクルプラスチックの量はさほど変わっていないが不燃ごみの排出量が減ったので、パーセンテージとしては上がっているため目標達成。引き続き職員へは不燃ごみとプラスチックの適正な分別を推奨する。 ・不燃ごみとプラスチックを適正に分別する。 ・各部署に設置したリサイクルプラスチック用ごみ箱で、適正な分別を維持する。
グリーン購入率		53.68%	54.59%	○	各研究エリアアシスタント及び事務局総務課職員においては、グリーン購入の意識が大分向上してきているためか、目標としていた購入率を達成できた。その反面、会議用のお茶類、洗剤やスポンジ等グリーン製品がなかなか存在しない製品の不可避な購入があるのでこれ以上の向上はなかなか難しいと思われる。
資源リサイクル	ビン	恒常的な異常値を追究する事を目的とし、削減目標値は設定しない。			継続的な増加傾向は見られなかった。毎月適時に確認をしているが、排出の異常値は見られなかった。職員へは引き続き、適正に分別をし、リサイクルを実施することを推奨する。
	ペットボトル				
	カン				

# 目標 1. 環境負荷に関する環境目標

## (1) 葉山本部における取組結果 ④ (データ : 2013-16年)

電気使用量 : Kw/h



ガス使用量 : m<sup>3</sup>



CO2排出量 : t\_Co2



### ◆電力使用量◆

使用の主となる空調機の稼働について、ガスとの併用により日中における熱源機の運転時間を短縮し、使用量を削減しました。

### ◆ガス使用量◆

上記電気量と同様、空調の室内温度を細かく調整することにより稼働時間を短縮し、使用量を削減しました。

### ◆CO2排出量◆

上記の電気・ガスの使用量の削減により、CO<sub>2</sub>排出量を削減することができました。

# 目標 1. 環境負荷に関する環境目標

## (1) 葉山本部における取組結果 ⑤ (データ : 2013-16年)

可燃ごみ排出量 : kg



不燃ゴミ排出量 : kg



総排水量 : m<sup>3</sup>



◆可燃ごみ排出量について◆

日常管理において施設管理業者と増加要因の分析、対策を行い削減しました。

◆不燃ごみ排出量について◆

分別収集の徹底を行い、不要なゴミは出さない、持ち帰る等職員への周知を徹底し削減しました。

◆総排水量について◆

2015、16年は排水弁の故障が増加の要因となっている。ビオトープ(池)への注水回数などの増加等、天候の影響も一因と考えられる。

# 目標 1. 環境負荷に関する環境目標

## (1) 葉山本部における取組結果 ⑥ (データ : 2013-16年)

### リサイクルプラスチック : %

\* 不燃ゴミと合算した総量に対する割合



### カン.ビン.ペットボトル : Kg



### コピー用紙使用量 : 枚



◆リサイクルプラスチックについて◆  
2015年度より専用のゴミ箱を設置しており分別化が促進されプラスチック回収率が増加しました。

◆カン、ビン、ペットボトルについて◆  
適正な分別を行うことを目的としており、職員への周知、ゴミ箱の分別設置も行うと同時に、持ち帰る等の指導も行った。

◆コピー用紙使用量について◆  
両面印刷や裏紙の使用等、職員の意識は根付いている。資料の電子化や所内のグループウェアの活用によるペーパーレス化も行っています。

# 目標 1. 環境負荷に関する環境目標

## (2) 関西研究センターにおける取組結果

環境目標	環境活動計画	具体的取組 (2016年度上期)	2016 上期評価	2016 年間評価
温室効果ガス排出量の削減	b電気・施設用燃料等使用量の削減に努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 昼休み等、職員不在の時の職場の消灯を徹底する。</li> <li>● 日中の部分消灯、残業時の部分点灯を徹底する。</li> <li>● 昼休みや長時間離席時等はパソコンをスタンバイモードとする。</li> <li>● 冷暖房を運転する場合は、適切な温度（冷房時28℃以上、暖房時20℃以下）に設定する。</li> <li>● 近くの階へはエレベーターを使わず、階段を利用する。</li> <li>● (夏季)「エコスタイル・キャンペーン」時は、ノーネクタイ等による軽装に努める。</li> <li>● (冬季)一枚重ね着など「冬のエコスタイル」の実践に努める。</li> </ul>	◎ ◎ ◎ ◎ ○ ◎	◎ ◎ ◎ ◎ ○ ◎
ごみ排出量（可燃ごみ・不燃ごみ）の削減	3Rの推進に努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 資源ごみの分別回収、リサイクルを徹底する。</li> <li>● 事務用品、備品の再利用に努める。</li> <li>● 不要用紙の回収箱を設置し、リサイクルを推進する。</li> </ul>	◎ ○ ◎	◎ ○ ◎
省資源の推進	コピー用紙購入量、水使用量の削減に努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 両面・集約コピーを徹底する。</li> <li>● 片面使用済み用紙を活用する。</li> <li>● インターネット情報等のプリントアウトを抑制する。</li> <li>● 節水行動に努める。</li> </ul>	○ ◎ ◎ ○	○ ◎ ○ ○
グリーン調達	環境配慮型製品の購入等の促進を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 環境に配慮した物品等を購入及び使用する。</li> </ul>	◎	◎

◎ 極めて適切に行われている ○ 適切に行われている △ 適切さにやや欠ける × 適切でない

### ◆ 2016年度コピー用紙購入量の削減目標

2012年度比5%削減 (2012年度コピー用紙購入量：A4 90,000枚、A3 3,000枚)

2016年度上期コピー用紙購入量：A4 30,000枚、A3 0枚

2016年度年間コピー用紙購入量：A4 67,500枚、A3 1,500枚 (目標達成)

### ◆ 2017年度コピー用紙購入量の削減目標

2012年度比5%削減 (2012年度コピー用紙購入量：A4 90,000枚、A3 3,000枚)

2017年度上期コピー用紙購入量：A4 25,000枚、A3 1,500枚

# 目標1. 環境負荷に関する環境目標

## (3) 北九州アーバンセンターにおける取組結果

環境目標	2015年度の実績	基準値 (FY2011)	2016年度実績と評価		2017年度
			実績値 目標値	評価	目標
CO2排出量の削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昼休み・職員不在時の部分消灯を実践した。</li> <li>・効率的な海外出張（One Shot複数業務）を実践した。</li> <li>・勤務地内出張時公共交通機関を利用した。</li> </ul>	【オフィスごとの電力消費量の計測なし】		○	2015年度と同様の計画の実践
廃棄物排出量の削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古紙を専用リサイクルBOXで回収し、回収時に計測する。</li> <li>・ペットボトル・空き缶はビル内の指定の分別回収BOXへ捨てる。（オフィス内とりまとめなし。）</li> </ul>	【古紙排出量計測データ無】	【古紙計測値】 88.6kg (月平均7.4kg)	○	古紙について引き続き排出量を計測
省資源の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会議資料等のペーパーレス化をはかった。</li> <li>・裏紙の再利用及び複数頁集約/両面印刷の徹底。</li> <li>・コピー機使用料（利用単価/使用料金）の「見える化」で毎月取り組み結果を共有。</li> </ul>	コピー用紙購入量 6,250枚/人	5,500枚/人 5,625枚/人 【基準値10%削減】	○	コピー用紙購入量 5,625枚/人
グリーン購入推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消耗品の調達について、不要不急な購入は行わないように発注回数を定期化(原則月1回)した。</li> <li>・整理整頓を4半期毎に行い消耗品の在庫確認を行った。</li> </ul>	消耗品購入額に占めるグリーン購入額割合45%	96% 85% 【基準値40%増】	○	グリーン購入 85%
地域環境美化活動への貢献	北九州市内のステークホルダーが主催する環境活動への参加を所内で積極的に呼びかけIGES・KUCとして事業参画に貢献した。 参画事業 ・東アジア環黄海10都市共同プロジェクト「日中韓10都市海岸クリーンアップ事業」北九州市若松区岩屋海岸ボランティア清掃への参加(6名) ・ジュニア・サイエンス・スクール「微生物の力で生ごみを土に変えよう！」(九州工業大学と共同開催)(4名) 小学生(20名)を対象にごみと資源循環を学ぶ講座を開催、地域社会/家庭でのごみ減量を啓発した。 他 東田サステナブル国際会議(6名)、北九州エコライフステージ(3名)	地域で行われる環境/美化活動への参加 2人・回	19人・回 10人・回 【全常勤職員】	○	全常勤職員 8人・回



# 目標1. 環境負荷に関する環境目標

## (5) APNセンターにおける取組結果

2016年度 (2016年4月～2017年6月)		
取組内容・目標	中間評価	年間評価
<b>電気等使用量の削減</b>		
<input type="checkbox"/> 職員不在時の職場の消灯を徹底する。	○	○
<input type="checkbox"/> 使用していない部屋の照明はこまめに消す。	◎	◎
<input type="checkbox"/> 夜間、休日はパソコン、プリンター等の主電源を切り、待機消費電力を削減する。	◎	◎
<input type="checkbox"/> 冷暖房を運転する場合は、適切な温度（冷房時28℃以上、暖房時20℃以下）に設定する。	◎	◎
<input type="checkbox"/> 近くの階へはエレベーターを使わず、階段を利用する。	○	○
<input type="checkbox"/> 夏季、冬季のエコスタイルの実践に努める。	◎	◎
<b>3Rの推進</b>		
<input type="checkbox"/> ゴミの分別、リサイクルを徹底する。	◎	◎
<input type="checkbox"/> コピー機、プリンターのトナーカートリッジ回収ルートを確立し、リサイクルに取り組む。	◎	◎
<input type="checkbox"/> 不要用紙の回収箱を設置し、リサイクルを推進する。	◎	◎
<input type="checkbox"/> 事務用品、備品の再利用に努める。	◎	◎
<b>コピー用紙、水の使用量削減</b>		
<input type="checkbox"/> コピーの両面印刷や裏紙使用を行い、無駄な印刷を削減し、紙の有効利用を図る。	○	○
<input type="checkbox"/> 手洗い時や洗い物をする際には節水を心がける。	○	○
<b>グリーン購入の促進</b>		
<input type="checkbox"/> 環境に配慮した物品の優先的購入に努める。	◎	◎
<input type="checkbox"/> SOYインクや植物油インクなど環境に配慮した印刷技術を有する印刷業者への発注を心がける。	◎	◎
<b>コピー用紙購入量の削減目標</b>		
基準年度（2011年度）比46%削減：54,000枚 （2011年度コピー用紙購入量：100,000枚）	<b>【参考】</b> 2015年度購入量：76,000枚 2016年度購入量：54,000枚	◎
	15,000枚	◎ 54,000枚

# 目標 1. 環境負荷に関する環境目標

## (6) 国際生態学センターにおける取組結果 ①

### 国際生態学センター

(2016年度評価)

#### ●電気使用量の削減

一昨年の新横浜への事務所移転後、各自の在所状況によって効率的な点灯が可能となり、各自の意識がこれまで以上に高まり、照明、エアコンの温度設定に注意を払っている。数年で室内の照明をLED照明へ切り替えることを検討したが、一時的に係る費用負担を考慮し継続検討。

#### ●グリーン購入等

コピー用紙の発注に際し、必要な数量ずつ購入するなどしたことにより、全体的な使用量が減少し、裏紙使用も定着している。消耗品等の購入に際し、グリーン購入品があるものについては、グリーン購入で対応している。

#### ●職場内でのエコアクションの理解の向上

アルバイト等の短期雇用者に対しても雇用時に説明し、理解を得られている。

#### ●J I S E 研修事業の充実

国際生態学センターの大きな目的である「地域環境の修復から地球環境の再生・創造を目指す」ため、2013年度より研修事業を充実させ、多くの市民の方が省エネルギー、省資源など、環境への取り組みを具体的に考える機会が得られるよう努めている。特に例年夏休みに開催するエコスクール「まちの熱をはかろう」には、定員を超える応募があり、子供たちに環境問題を考えるきっかけを作ることができた。また、2017年4月からは、神奈川県立博物館との共催事業として野外観察会を新たに実施。

2012年度 延べ 6 回開催 (年間)

2013年度 延べ 13 回開催

2014年度 延べ 19 回開催

2015年度 延べ 17 回開催

2016年度 延べ 19 回開催



# 目標 1. 環境負荷に関する環境目標

## (6) 国際生態学センターにおける取組結果 ②

### 国際生態学センター

(2017年度活動目標)

#### ● 電気使用量の削減

新横浜事務所への入居後、各自の在所状況によって効率的な点灯・消灯が可能となり、各自が意識的に照明、エアコンの温度設定に注意を払っている。数年内で室内の照明をLED照明へ切り替えを費用面の課題を含めて検討する。

#### ● グリーン購入等

コピー用紙の発注に際し、必要な数量ずつ購入するなどしたことにより、全体的な使用量が減少し、裏紙使用も定着している。消耗品等の購入に際し、グリーン購入品があるものについては、グリーン購入で対応を行う。

#### ● 職場内でのエコアクションの理解の向上

引き続き、アルバイト等の短期雇用者に対しても雇用時の説明を行い、E A 2 1の理解を得るように努める。

#### ● J I S E 研修事業の充実

国際生態学センターの大きな目的である「地域環境の修復から地球環境の再生・創造を目指す」ため、2013年度より研修事業を充実させ、多くの市民の方が省エネルギー、省資源など環境への取り組みを具体的に考える機会が得られるよう努める。

昨年度後半(2017年4月以降)から、神奈川県関連機関との共催で観察会等の事業を実施するとともに、内容についてもIGES研究員を講師とした生態系サービスに関する政策の国際的動向を加える等、参加者の環境問題に係る知識・理解向上に努める。

2013年度 延べ13回開催(年間)

2014年度 延べ19回開催

2015年度 延べ17回開催

2016年度 延べ19回開催

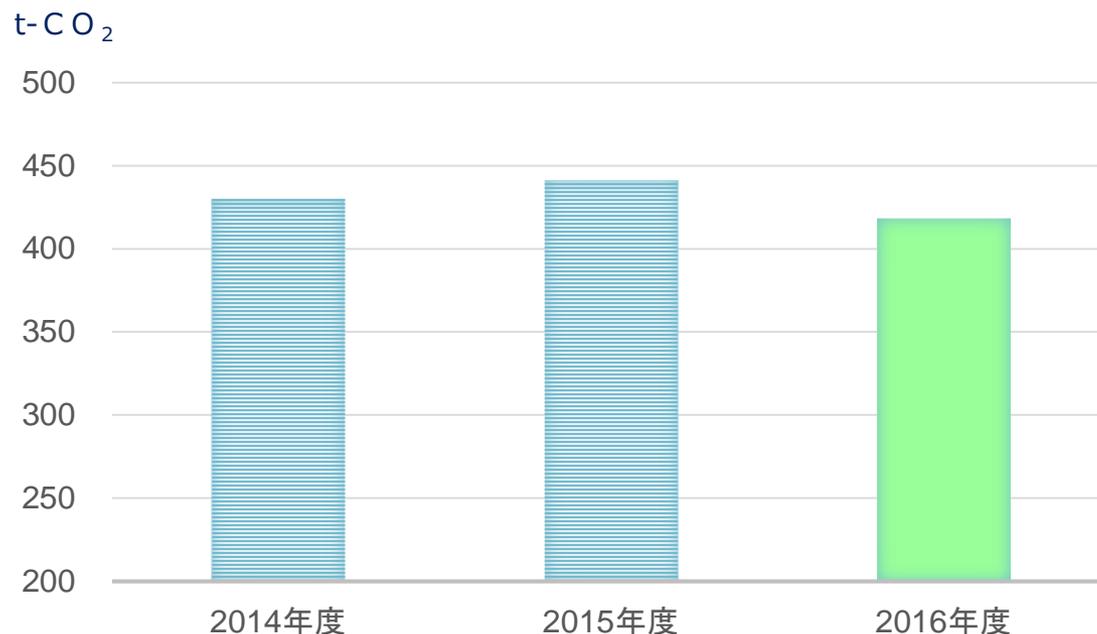
2017年度 延べ22回開催予定

(12月末までに15回開催)



# 目標 1 . 環境負荷に関する環境目標

## (7) 出張の航空機利用に伴うCO<sub>2</sub>排出量の推移



IGESでは建物設備のエネルギー消費（電気、ガス）に伴い排出されるCO<sub>2</sub>だけではなく、海外出張に伴う航空機利用におけるCO<sub>2</sub>排出量に目をつけて排出量の把握に取り組んでいます。国際的な環境問題の研究に取り組んでいるため海外における現地調査や会議への出席などが発生します。事業の拡大に伴い海外出張の機会が増加することは不可避ですが、研究員一人一人が通信会議システムの利用や、出張する職員数の検討、他の出張業務と併せることによる出張回数の削減する、などの工夫を行っています。

海外出張の航空機利用による年間のCO<sub>2</sub>排出量は、葉山本部の建物から排出される量に匹敵するため可能な範囲で引き続き削減の取組みを行っていきます。

## 目標 2. 新電力への切替の検討に関する取組結果

IGES本部事業所では、2017年3月1日から従来の東京電力エナジーパートナー株式会社から、再生可能エネルギー供給率の比較的高い、湘南電力株式会社（神奈川県平塚市、2014年設立）へ電力供給源を切り替えた。この取組によって以下の効果が期待されている。

- 再生エネルギー由来の比較的多い電力を使用することによるCO<sub>2</sub>排出削減への貢献
- 電力単価の引き下げ（約7%、契約時情報による）による管理費の削減
- 電力の地産地消、地元環境対策推進への貢献

**IGES** × 湘南電力

# 目標3. IGESエコアクションの社会への還元

## (1) ISAP/持続可能なアジア太平洋に関する国際フォーラムの開催

持続可能なアジア太平洋に関する国際フォーラム（ISAP）は、IGESが国連大学サステナビリティ高等研究所（UNU-IAS）との共催で、国際的に活躍する専門家、企業、政府、国際機関、NGO関係者が一堂に会し、持続可能な開発についてアジア太平洋地域の視点から議論を行う国際フォーラムです。2016年度は「Translating Knowledge into Actions towards 2030 and beyond」をメインテーマに、2015年の2つの重要な国際的合意—持続可能な開発目標（SDGs）を含む「持続可能な開発のための2030アジェンダ」と2020年以降の

 **ISAP 2016** 新たな気候変動枠組みである「パリ協定」の成果を国際・国家・地方/地域レベルで効果的に実施していくための方策について活発な議論が交わされました。

日時	2016年7月12日（火）、13日（水）
会場	パシフィコ横浜会議センター（横浜市西区みなとみらい1-1-1）
主催	公益財団法人 地球環境戦略研究機関（IGES）
	国連大学サステナビリティ高等研究所（UNU-IAS）
協力	国連環境計画（UNEP）、国連アジア太平洋経済社会委員会（UNESCAP）
	経済協力開発機構（OECD）、国立環境研究所（NIES）
	持続可能な開発ソリューション・ネットワーク・ジャパン（SDSN Japan）
後援	環境省、神奈川県、兵庫県、横浜市、川崎市、北九州市、富山市、
	国際協力機構（JICA）、イクレイ日本（ICLEI）、地球環境行動会議（GEA）
参加者数	延べ1,000名以上
言語	日本語・英語（同時通訳付）



# 目標3. I G E Sエコアクションの社会への還元

## (2) 地域での活動 <自治体との連携>

### 地球温暖化の現状／持続可能な開発目標（SDGs）に関する講演会

2016年11月に神奈川県との協働による「地球温暖化の現状／持続可能な開発目標（SDGs）に関する講演会（かながわ地球環境保全推進会議 県民部会・企業部会）」が横浜市技能文化会館で開催されました。

IGESからは主任研究員が登壇し、SDGsとは何かという事から、それが世界や企業とどのような関わりがあるのかという事について講演しました。当日は一般企業の方と県民の皆様が多数参加され、講演後のQ&Aでは、今後もこのような一般市民にもわかりやすい内容で講演活動を続けて欲しいという意見が出るなど非常に活発な意見交換が行われました。



2016年11月  
横浜市技能文化会館 参加者約30名  
講演者：宮澤研究員（日本）

プログラムマネジメントオフィス

テーマ：「持続可能な目標（SDGs）と企業の動き」



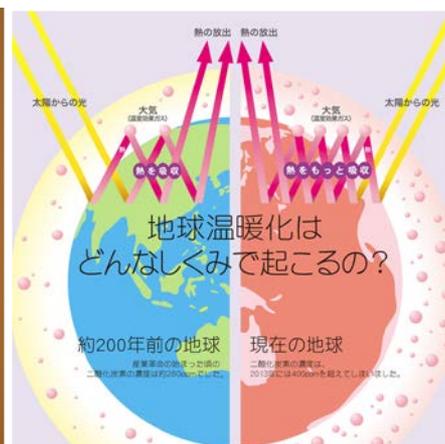
# 目標3. I G E Sエコアクションの社会への還元

## (3) 地域での活動 <情報発信>

### 湘南国際村アカデミア講演会



本部のある湘南国際村（神奈川県葉山町）の研究機関ネットワークを活用して、一般の方々を対象とした講演会「湘南国際村アカデミア」を（公財）かながわ国際交流財団と毎年共催しています。2016年度は「今さら聞けない!? 気候変動」と題し、IGES自然資源・生態系サービス領域の研究者が、様々なデータをもとに気候変動の現状、温暖化の要因、将来の気候について、また気候変動に対するIGESの取り組みを交え分かりやすく解説しました。参加者の気候変動への関心が高く、休日にもかかわらず本会場の湘南国際村まで多くの方が来場し講義後の質疑応答も活発に行われた他、終了後も質問者が列となるなど充実した講義となりました。



2017年1月  
IGES葉山本部 参加者約60名  
講演者：仲田研究員（日本）  
自然資源・生態系サービス領域  
テーマ「今さら聞けない? 気候変動」

# 目標3. I G E Sエコアクションの社会への還元

## (4) 地域での活動 <地元貢献>

### 葉山町長とのパネルディスカッション

地元葉山町が開催した地元住民とのパネルディスカッション「人×食=葉山の元気」にIGES研究員がパネリストとして参加し、町長や地元参加者の方々と活発な意見を交わしました。

現在の葉山町の行政課題である、待機児童、学校給食センター設置、地域福祉、事業系ごみの資源化・減量化の推進や隣接市とのごみ処理連携などについて、「食」をメインテーマとしたなかで、IGES研究員は「食の安全・安心」という視点から発表を行いました。学校給食では、地産地消、食育の推進、給食センター設置について、IGESで得た知見や成果を発信する機会にもなり活発な意見交換も行われました。



2017年3月  
葉山町福祉文化会館  
参加者約40名

パネリスト:

渡部研究員(日本)他

持続可能な消費と生産領域



## 目標3. I G E Sエコアクションの社会への還元 (5) 地域での活動 <環境教育>

### ◆総合学習への協力

地元中学校の生徒16名が、総合学習の一環としてIGES葉山本部を訪問し、「食」に関わる環境問題について研究員の講義を受講しました。特に家庭から出るごみの1/3が食べ残しである統計を学び日常生活を振り返る、また研究員との交流を通して、そのほかの様々な環境問題について考える機会となりました。

2016年5月 葉山本部

講師:LIU研究員(中国) / 持続可能な消費と生産



### ◆職場体験学習の受入れ

地元中学生2名を受け入れて行った職場体験学習では、「森林減少問題と研究者の仕事」というテーマで、世界を取り巻く森林減少問題と地球温暖化問題との関係や森林を守るために研究者としてどのような仕事をしているのかなど、中学生に分かりやすい説明を行いました。研究活動の環境問題に取り組む様子を現場で直に学びIGESがどのような研究を行い人々の生活に関わっているかを知ってもらう機会となっています。

2016年7月 葉山本部 講師:山ノ下研究員(日本) / 自然資源・生態系サービス

#### その他の活動について

2016年のその他の活動(研究活動、セミナー・シンポジウム、出版物等)につきましてはIGESのHPに掲載されております「2016年度年報」「事業報告」等をご参照下さい。  
[www.iges.or.jp](http://www.iges.or.jp)

### 3. 2016年度の環境活動の評価及び2017年度の取組内容

2016年度の環境活動の実績から、一部に目標を達成できなかったものがあるものの、環境目標は概ね達成されていることから、2016年度の環境活動は改善を見つつ、良好に取り組みられていると評価する。

2017年度は、このような取組み実績を基に、環境目標及び環境活動計画を再度設定し、それに基づき環境活動の更なる取組みに努める。

また、新たに設定された、2017年度から2020年度の中期環境目標の実現も念頭に置く。

その際、2017年度は、新たな統合的戦略研究計画が策定されたことも踏まえ、持続可能な社会の実現を目指す政策研究を一層進める。

## 4. 環境中期目標（環境負荷への対応）の策定について（参考）

- 2017年5月に策定し、対象年度は、2017年7月から開始する第7期IGESの統合的戦略研究プログラムの期間にあわせ4年間（2017年度-2020年度）とした。年度の区切りは、IGESの事業年度に合わせ7月-6月のサイクル。
- 第7期研究プログラム以降の長期的な目標は、IGESの期ごとに活動の規模（事業や人員）が変化するため策定しない。
- 葉山本部事業所において先行的に策定・実施し、その他の事業所においては各事業所の課題や状況を踏まえ順次策定・実施。
- 対象とする環境負荷は、エネルギー使用由来のCO<sub>2</sub>排出量及び廃棄物（不燃ごみ及び可燃ごみ）。

取組項目	中期目標	実施の方法、実施主体、担当部署等
CO <sub>2</sub> 排出	CO <sub>2</sub> 換算4年間で5%削減、（前年度比1.3%減程度）	施設で使用する電力とガスのエネルギーミックスの改善等により実施。エコアクション事務局と本部ビル管理会社との共同が実施主体。
廃棄物排出	不燃ごみの排出を4年間で10%削減（前年度比2.6%減程度）	本部ビルの管理会社と共同で、分別収集の強化を維持しつつ、不燃ごみの発生（一因となる不燃ごみが発生する物品の購入の抑制、可燃あるいは再生可能な材質使用への転換等）、リサイクルの強化により実施。職員全体及び施設全体（カフェテリア含む）が実施主体。
	可燃ごみの排出を4年間の平均で2,400Kg／年以下に抑制	本部ビルの管理会社と共同で、特に紙等の分別収集・リサイクルの強化を維持しつつ、可燃ごみの発生の抑制（ITの活用等による紙の使用削減、可燃ごみが発生する物品の購入の抑制等）により実施。職員全体及び施設全体管理者が実施主体。

## 5. 環境関連法規の遵守状況及び法律違反・訴訟・苦情の有無

環境関連法規の遵守状況等の点検を2017年6月に行った結果、問題ないことを確認した。

### ◇法規の遵守状況の確認方法

- 1) 『エコアクション2.1ガイドライン2009年版（改定版）』（2011年6月）の「参考1 主な環境関連法規」に列挙されている法律全21本を環境関連法規について遵守状況を点検した。
- 2) 法律以外に地方自治体（神奈川県、葉山町）の定める環境関連の条例で、IGESが対象になるものについて遵守状況を点検した。
- 3) 条例の他に本部施設のある湘南国際村の運営管理組合の定める協定について遵守状況を点検した。

確認者	斎藤暁生
確認期間と頻度	定期的に月に一回
法律違反の有無	無
訴訟の有無	無
環境に関する苦情の有無	無

## 6. 代表者による全体評価と見直し

### 理事長（代表者）の見直し方針

2017年2月に実施されたエコアクション21認証更新審査結果を受け、代表者より以下の評価と見直し指示があった。



I G E Sにおける日常の業務活動には既にエコアクション21の取組みが定着しております。職員一人一人がI G E Sの戦略研究オペレーション業務においてエコアクション21の取組や意義を見出し、独自の工夫をエコアクション21の活動の中に取り入れて下さい。

持続可能な発展の実現を目指すI G E Sの取組みがエコアクション21活動そのものとなることを常に念頭に置き、エコアクション21活動の真意、目的を理解し、どのようにすれば社会的インパクトを創り出し社会に還元していくことができるかということを中心に念頭に置き行動して下さい。